

報道関係者各位

令和3年7月7日
独立行政法人国立科学博物館

収蔵庫コレクションを活用した巡回展キットの貸出スタート 地域振興を目的とした新たな巡回展を開発

国立科学博物館（東京都台東区、館長：篠田 謙一）では、全国の博物館などへ巡回展キットの貸出を積極的に行なってきました。この度、収蔵庫で保管されている標本を活用し、地域振興を目的とした新たな巡回展キット「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」を開発しました。全国の様々な施設を対象に、哺乳類を中心とした貴重で珍しい剥製や資料で構成された展示キットの貸出を開始します。



イラスト：巡回展キットのイメージ



写真：自然史標本棟

巡回展キット「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」の特徴

■ 巡回展による標本資源の活用モデルの構築

収蔵庫で保管されている標本資料を展示キットとして全国規模で循環をさせることで、博物館が持つ資源の新しい価値を世の中に提示するためのモデルを構築します。

■ 標本資料の観察を通じて「発見の体験」をする展示

展示テーマは「観察の目、発見の芽」です。剥製周辺にはあえて情報を置かず、まっさらな視点での観察を促します。これまでよりも深く考える時間や機会が増えているコロナ禍で、剥製だからできる観察、剥製だから生まれる発見を通して、自分なりの気づきが浮かび上がる展示です。

■ 全国の多様な施設への貸出

完成されている展示キットを貸し出すことで、科学系博物館だけではなく全国の美術館や商業施設など多様な施設で開催が可能です。全国の様々な施設で、来場者が標本資料に触れ、驚きや発見を体験する機会を創出していきます。

【本プレスリリースに関する問合せ先】

独立行政法人国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター
中山、久保

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

TEL：03-5814-9808 FAX：03-5814-9899

E-mail：junkaiten@kahaku.go.jp

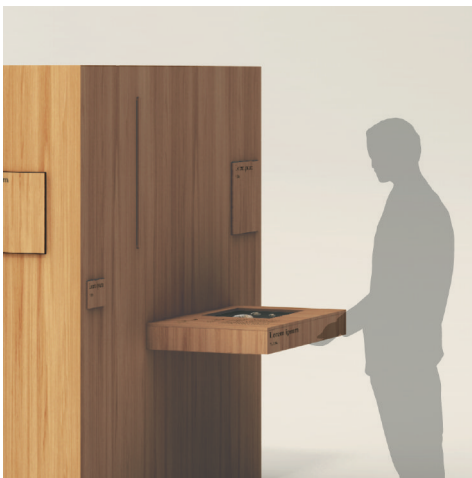
展示紹介

国立科学博物館では、およそ480万点ほどの膨大な標本を有していますが、その多くは収蔵庫に保管され普段は公開されていません。この展示キットでは、その収蔵庫の中から世界屈指の動物標本コレクションとして知られる「ヨシモトコレクション」を中心に、選りすぐりの哺乳類などの標本を紹介するものです。

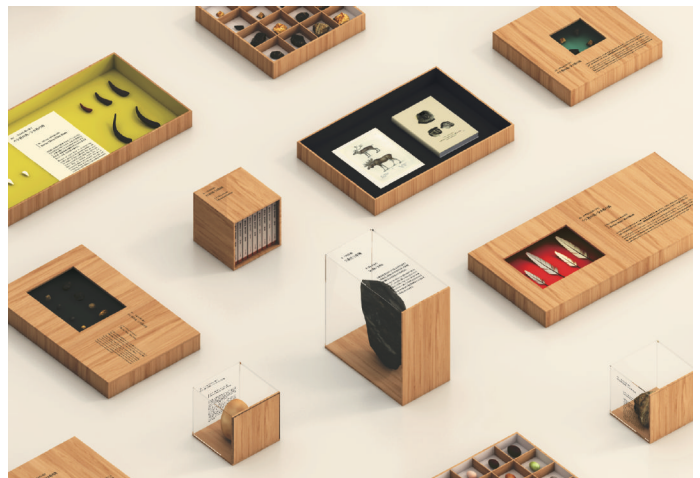
生物の形は長い進化の歴史の成果です。それはその時代の環境に対しての一つの解であり、動物の剥製はその歴史の「ある一時」を切り取った姿です。剥製となった動物が生きた環境には、その生息地における気候、地形、天敵や捕食対象、寄生虫、共に生きる同種他個体などがそこに含まれます。剥製を観察することで、環境への適応による動物の生き様や多様性の複雑さ、そして自然が創り出した美しさを知ることができます。

テーマは「観察の眼、発見の芽」です。“声なき標本たち”の姿を通して、見つめる眼（観察）と見つける眼（発見）を育み、他の動物との意外な共通点、私たちの日常とのつながりなど、標本にまつわる学びや問いを発見することができる展示となっています。

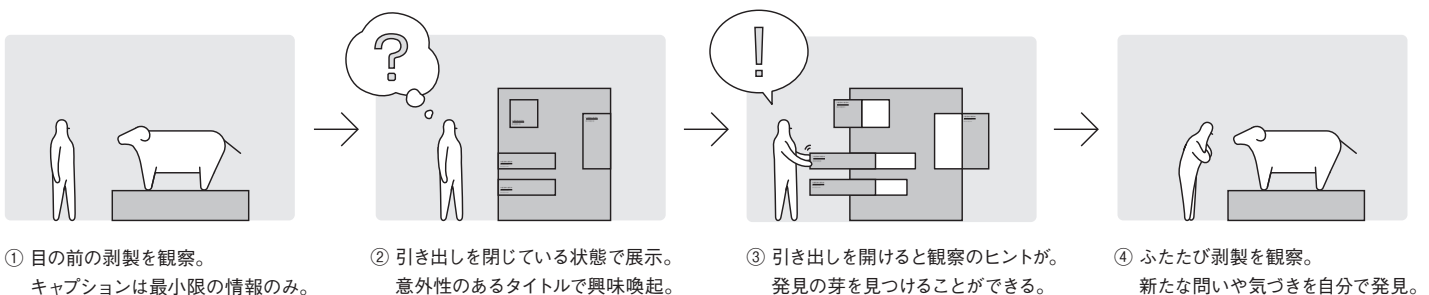
動物の剥製1点1点を美術作品のようにじっくりと観察するという展示方法で、来館者と剥製の新しいコミュニケーションをつくります。ここで標本に付帯するのは、解説ではなく、観察するための「視点」の提示です。それは展示を体験する人を「自分なりの気づきを得られる体験」、誰にも享受してほしい「新しい発見や驚き」へと導きます。観察の視点を持ち、発見の体験を通じて、私たちと動物とのつながり、自然とのつながり、世界とのつながりを感じてもらいます。



イラスト：展示什器イメージ



イラスト：展示什器イメージ

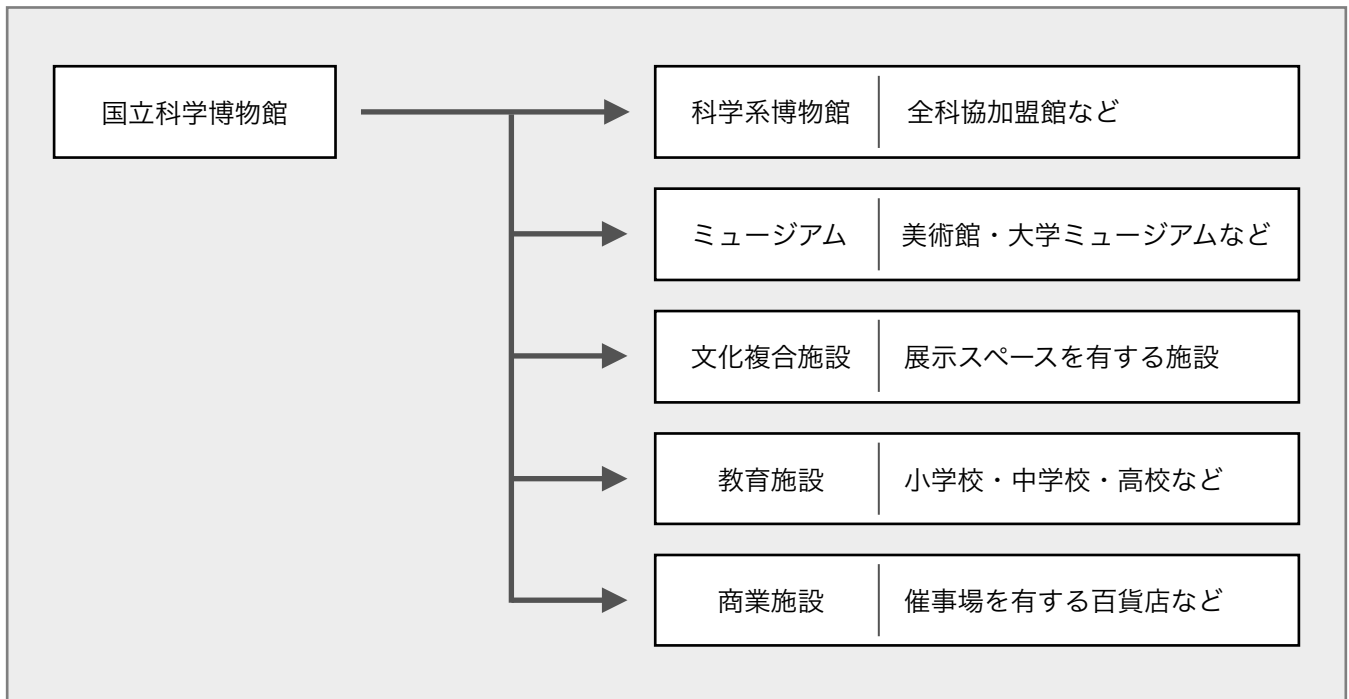


イラスト：展示体験フロー

巡回展の貸出

2019年4月に独立行政法人国立科学博物館内に設置された「科学系博物館イノベーションセンター」では、博物館の持つ様々な資源を活用した取り組みを実施することで、当館の経営基盤の強化と地域の博物館も含めた科学系博物館の活性化を目指して事業を実施しています。

当巡回展は、標本資源の新しい価値を世の中に提示すること、また地域博物館も含めた事業活性化を目的としています。科学系博物館はもとより、美術館や商業施設など全国の様々な施設へ貸出を行い、博物館の持つ資源を全国規模で循環させることで、誰もが驚きや発見を体験する機会を創出していきます。



図：巡回展キットの貸出イメージ

大分県立美術館での開催概要

第一回目の巡回展として、大分県立美術館に展示キットを貸出、以下の内容で展覧会を開催します。

【巡回会場】大分県立美術館3階 コレクション展示室

【会 期】2021（令和3）年7月22日（木・祝）～9月12日（日）

【開館時間】10時～19時 ※金曜日・土曜日は20時まで（入館は閉館の30分前まで）

【観 覧 料】一般300円／小・中・高校生200円

【主 催】公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

【特別協力】独立行政法人国立科学博物館

【後 援】大分県、大分県教育委員会、大分合同新聞社、西日本新聞社、朝日新聞大分総局、
毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、
OAB大分朝日放送、エフエム大分、J:COM大分ケーブルテレコム

【企画編集・デザイン】日本デザインセンター 三澤デザイン研究室

学術監修

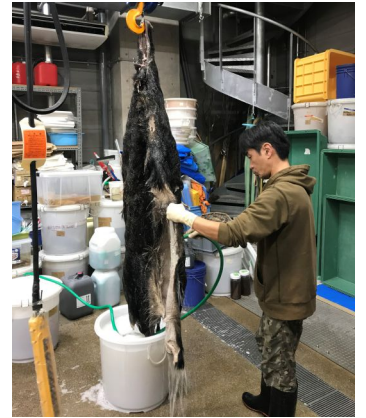
国立科学博物館 動物研究部 研究主幹

川田 伸一郎（かわだ しんいちろう）

1973年、岡山県生まれ。国立科学博物館動物研究部研究主幹（農学博士）。

専門はモグラ研究。名古屋大大学院博士課程入学後のロシア留学で標本作製に目覚め、職を得た同館の資料充実に奔走する。

著書に『モグラ博士のモグラの話』、『標本バカ』、『アラン・オーストンの標本ラベル』などがある。



企画編集・デザイン

日本デザインセンター 三澤デザイン研究室

ものごとの奥に潜む原理を観察し、そこから引き出した未知の可能性を視覚化する試みを、実験的なアプローチによって続けている。主な仕事に、水中環境をあらたな風景に再構築した「waterscape」、takeo paper show 2018 「precision」への出品作「動紙」、上野動物園の知られざる魅力をビジュアル化した「UENO PLANET」、ロゴの自在な展開性を追求したKITTEやTOKYO BIG SIGHTのVIがある。今年7月に島根県隠岐の島にできるジオホテル「Entô」のアートディレクションも手掛けている。

三澤 遥 | 1982年群馬県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業後、デザインオフィス nendoを経て、2009年より日本デザインセンター原デザイン研究所に所属。2014年より三澤デザイン研究室として活動開始。ADC賞（2019）、毎日デザイン賞（2019）、JAGDA賞（2020）受賞。著書に『waterscape』（出版：X-Knowledge）がある。

私たちは誰なのか。

WHO ARE WE

観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類

2021年7月22日[木・祝] —→ 9月12日[日]

開館時間 10:00 — 19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

WHO ARE WE

観察と発見の生物学

国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類



かほくの秘蔵がやってくる。

およそ480万点。世界中から集められた無数の標本が保管されている茨城県つくば市の国立科学博物館 自然史標本棟。普段は非公開のコレクションの中から、哺乳類を中心とした貴重で珍しい剥製や資料を選び抜き、特別巡回する展覧会をOPAMで全国初公開。

[写真: ©Gottingham]

サバンナの動物に目と鼻の先で向き合い、
数億年前に絶滅した遠い祖先を見つめ、
南半球と北半球の動物をすぐそばで比較する。
距離を、時間を、種をこえる多様な剥製。
展示台の引き出しに収められているのは、
これまでとは違う角度から世界を見るための視点の標本。
開けるたびに増えていく新しい見方、
少しずつ引き出されてくる好奇心。
ふたたび剥製に目を向けると、
それまでとは異なる姿に見えてくる。
気づかなかった不思議に気づき、
わかった気になっていたことが、わからなくなることも。
そして静かに浮かびあがってくる問い。
哺乳類とは、ヒトとは何か。私たちは誰なのか。
剥製を見ていたはずなのに、
いつの間にか世界を見ている。自分を見ている。
それは目の前の出来事と
地球の出来事がつながりはじめるとき。
声なき剥製だから伝えることができる生物学。

[場所] 大分県立美術館3階 コレクション展示室 [観覧料] 一般300円/小・中・高校生200円

※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料。/※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料。/※学生の方は入館の際、学生証をご提示ください。/※「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」の会期中に限り、本展の半券提示でコレクション展を無料でご覧いただけます。

関連事業：オンライン講演会「標本工場へようこそ」

[講師] 川田伸一郎(国立科学博物館動物研究部研究主幹)

[日時] 2021年7月31日(土) 15:00~16:30

[募集期間] 7月1日~7月30日

[会場] 大分県立美術館2階 研修室・アトリエ

[参加費] 無料(要事前申込)

[定員] 70名

[申込み] お電話(097-533-4500)またはメール(app@opam.jp)

・件名にイベント名、メール本文にお名前とご連絡先をご記入の上、お申込みください。

・定員に達し次第、締切とさせていただきます。



展覧会情報

〒870-0036 大分市寿町2番1号 大分県立美術館
TEL: 097-533-4500 FAX: 097-533-4567 WEB: https://www.opam.jp
アクセス: JR大分駅府内中央口(北口)から徒歩15分/大分ICから車で10分

広報用写真提供

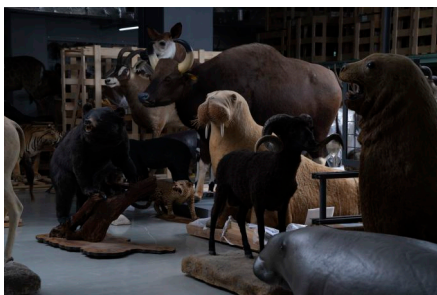
広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの各種手続き・報道関係資料→写真の貸出からお申込みできます。

<https://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>



1. 自然史標本棟 動物剥製1
(写真：©Gottingham)



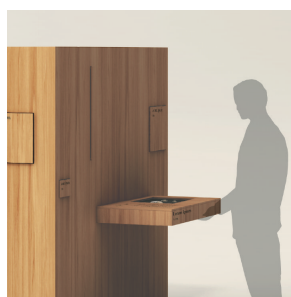
2. 自然史標本棟 動物剥製2
(写真：©Gottingham)



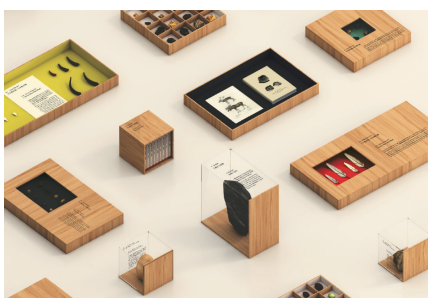
3. アルガリ
(写真：©Gottingham)



4. 巡回展キットイメージ



5. 展示什器イメージ1



6. 展示什器イメージ2

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 記事のなかで、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください（記事内容をチェックするものではありません）。
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈お問合せ先・巡回希望〉 国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター 中山、久保
電話 03-5814-9808 FAX 03-5814-9899
E-mail : junkaiten@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20